

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
97	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and sickness absence: a curvilinear relation 飲酒と病欠：J字型関係	
執筆者	
Jussi Vahtera, Kari Poikolainen, Mika Kivimaki, Leena ala-Mursula, Jaana Pentti	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
American Journal of Epidemiology 156:969-976,2002.	
キーワード	
行動, 循環器疾患, 健康, 性格, 病欠, 社会的支援	
要 旨	
<p>アルコール飲用と循環器疾患以外の健康問題とのU字型・J字型に関しては、あまりよく知られていない。診断書付きの病欠は一つの健康指標であるが、それは、冠動脈疾患に限るものではない。そこで、飲酒と病欠の関連を明らかにするために、フィンランドの1,490名の男性と4,952名の女性の市町村公務員を対象として、全ての原因による診断書付き病欠について4年間のコホート研究(1997-2000)より分析した。そして、アルコール飲用量別の病欠を、自己申告生活習慣、生物科学的検査所見、精神社会的要因、循環器疾患等を考慮して検討した。終生飲酒しない人、禁酒者、および多量飲酒者は、軽度飲酒者よりも病欠が生じる危険度は1.2倍以上高かった。飲酒と健康問題に関するU字型の関係は、精神社会的要因や禁酒者の非飲酒者群への参入等による交絡要因によって生じるものではないと考えられた。中等度の飲酒習慣(純アルコール1日7-14g程度)は、循環器疾患以外にも健康障害を低下させる要因となっていると考えられた。</p>	